

学科:再発見！何でも見てやろう

6 月 森永乳業神戸工場 見学

CA 田口 定、山崎栄一、結城 久、山上田起子、石黒洋子、磯山香洋子

梅雨も南の方から明け始め、夏本番に向け暑さ対策を考えている頃と思います。

森永乳業神戸工場はカリキュラムでは7月の予定でしたが、徒歩での移動や暑くなる時間帯となる事から、熱中症対策として6月に訪問することになりました。

見学は、阪神電鉄西灘駅に集合から始まりました。工場へはバスで行けると便利なのですが、朝と夕方の通勤時間帯のみの運行で、見学者は自家用車か貸し切りバスでの訪問が多いと想像されます。

神戸の摩耶埠頭にある工場までは、トラックの往来が多く、少し騒音と排気ガスを感じながら、歩いて 20～25 分程度で到着しました。

埠頭にある神戸工場の外観は、白色を基調としたデザインであり、清潔感を感じる建物で、太陽光パネルの設置や製造工程で発生した廃液等をバイオマス燃料として、ボイラーに使用している環境に配慮した工場との説明がありました。また、受付後の研修室も 100 人は入る大きな部屋でした。

説明は、最初に創業に関する事や工場のコンセプト、また製造している製品の紹介があり、神戸工場は5つの主要商品を製造しており、特に流動食も製造しているのは意外でした。



*・紙カップ飲料 ・ヨーグルト ・カップ飲料 ・流動食 ・アイス





工場見学の最初は除菌用エアシャワーの体験であり、一瞬の内に髪型が爆発してしまいました。その後、2階部分にある見学ルート（片道 120m）で説明を聞きながら往復しました。この日は、ほぼ全商品の工程が流れており、それぞれの包装の方法が異なる事やカップ飲料のコーヒー豆の数で濃さが異なる事やカップの山のイラストはシアトルにあるマウントレニアで別名タコマ富士と言われ、日系人が名付けた事も始めて



て知りました。また、工場全体で 600 人の人が働いているとの事ですが、目に見える人はそのわりに少なく、自動化がすすんでいると思いました。



最後に体験スペースでは、牛の実物大像やパネルがあり、また「乳」の魅力や「牧場」についての知識が分かりやすく説明されていました。

研修室に戻ると、新鮮な牛乳の試飲がありました。味も濃く、美味しかったので流石にお代わりする人も多いようでした。終了後は、玄関や庭に写真スポットも設定されており、皆記念写真を撮っていました。



その後解散となり、班毎に昼食に散っていきました。尚、昼食場所は、トラック運転手や工場勤務方もの為のお昼の場として、色々なチェーン店が出店しており、待つことなく食べる事が出来ます。また、近くに「阪神・淡路大震災記念と防災未来センター」や清酒「沢の鶴」の資料館もあり、そちらに見学に行ったグループもありました。

